

低コスト作業システム現地検討会の概要

平成 25 年 10 月 30 日、山形森林管理署管内の国有林で低コスト作業システム現地検討会が行われた。低コスト作業システムは、コストを抑えて効率良く木材を生産することで、林業の収益確保に資するものである。本検討会は昨年引き続き取り組みで、低コスト作業システムについて相互に研鑽を積むことを目的に、山形市高瀬の国有林 212 林班、西村山地方森林組合の生産現場で開催した。

参加団体は山形県、山形市、(独) 森林農地整備センター、森林組合連合会、山形地方森林組合、北村山地方森林組合、庄司林業、大江町林研グループ光林会、東北森林管理局、仙台森林管理署であった。

本署の署長、並びに東北森林管理局計画保全部長の挨拶にはじまり、本署職員による現場概要の説明、局資源活用課企画官から低コスト作業システムについての解説が行われた。その後西村山地方森林組合渡辺林産振興課長より、実際の作業が行われている現場にて、伐倒から造材、集材への一連の作業について説明が行われた。

西村山地方森林組合が心掛けていることは ①安全作業の徹底 ②人や機械の空き時間を最小限にする ③計画と実行結果の差を少なくする の 3 点だと説明があった。これらは低コスト作業システムを進めていく上で重要なポイントで、当日の作業では徹底されていた。

また、他の事業体からも各自の現場での作業や工夫している点などについての説明があり、これを受けて参加者から活発な議論が交わされた。

今回の検討会で様々な意見が出たが、その中で作業道の作設についての指摘は今後の参考になるものであった。作業道の作設において、先行伐倒が先行しすぎると現地の地形・地質条件に応じて開設される線形とズレが生じ伐開する必要が無い木まで伐ってしまう恐れがあり、路網作設と適切に連携をとって伐開を進めることに留意を求められた。

更に作業の効率化と丁寧な施業の両立、また、安全性の確保は重要な課題である。

今回の検討会のように、些細なことでも現地の作業を目の前にして気づいたことを全員で共有し、知見を積み重ねていくことが大切である。山形署としては今後も現地検討会を開催するなどして、森林・林業の再生に向けて貢献していきたい。

業務グループ 杉田 篤信



民有林を含め多くの関係者が参加



列状間伐を実施



道づくりについて意見交換